

# 東北初 ICT舗装見学会開催

## TLSの測定、管理など中心に

道建協

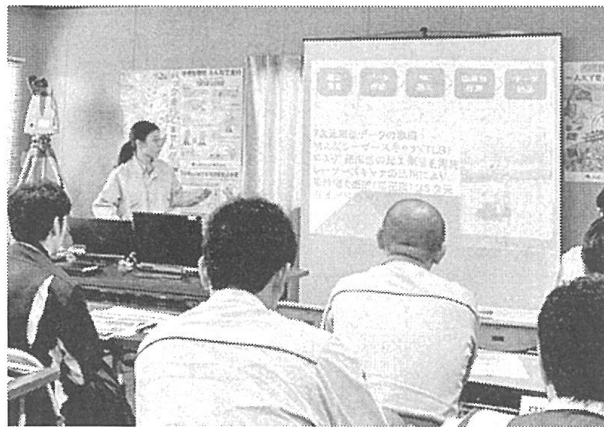
日本道路建設業協会（西田義則会長）は11月21日、東北地方整備局管内において大成ロテック施工の羽入地区舗装工事（山形県東根市、発注Ⅱ東北地方整備局山形河川

国道事務所）で、ICT舗装現場見学会を開催した。

同見学会は、ICT舗装技術の普及を目的として同協会が昨年から実施しているもので、東北整

備局管内で初の開催となった。当日は、同協会の会員企業から約20人が参加した。

見学会では、ICT舗装工事の現場概要をはじめ、TLS（地上型レー



ザースキャナー）の測定方法や管理方法などを中心に、ICT舗装工の一連のプロセスである①③

②③次元起工測量④③次元設計データ作成③ICT建設機械による施工④③次元出来形管理等の施工管理⑤③次元データの納品に関して、施工を担当する大成ロ

のTLS計測の実演は中止となり、座学によるTLSの測定方法や点群データの出来形評価などの講習を行ったⅡ写真。また、ICT舗装では取り扱うデータ量が多いため対応できる作業環境が必要となるなど、今後の課題も述べられた。TLSは、ICT舗装工事で必須となる管理方法とあって、質疑では現場での実施工況や計測時の留意事項などについて、参加者から熱心な質問があがった。

実際にICTを担当し

た大成ロテック東北支社工事部の小笠原圭純担当からは、同現場で得られた成果や取り組みについて苦労した点などの発表があり、当該工事以外の今後のICT舗装工事にも、今回のノウハウを活かし、i-Constructionの推進を図ってきたなどの意見も述べられた。